

マイクロディベート

マイクロディベートの手順

マイクロディベートの利点は、全員がすべての役割を経験できること、肯定側、否定側両方の立場からの立論を一人で書き上げることです。中学1年生にディベートを指導する際に、まずはその基礎固めとして、手軽に、そして生徒にとっては気軽にできる学習の一つです。手順は以下の通りです。

- (1) 3人1組になります。一人は肯定側、一人は否定側、一人は審判です。3回行い、全員がすべての役割を体験します。
- (2) 最初に肯定側が立論を述べます。時間は1分間です。
- (3) 次に否定側が立論を述べます。1分間です。
- (4) 肯定側が否定側に反対尋問を行います。時間は2分間です。このとき否定側は逆に質問をしてはいけません。
- (5) 続けて否定側が肯定側に反対尋問を行います。2分間です。このとき肯定側は逆に質問をしてはいけません。
- (6) ここで作戦タイム1分間です。
- (7) 否定側が最終弁論を行います。1分間です。
- (8) 肯定側が最終弁論を行います。1分間です。
- (9) 審判が判定します。まず勝敗を述べ、その後に理由を述べます。1分間です。両者へのねぎらいの言葉を忘れないこと。
- (10) ディベートはメモをとりながら行います。

マイクロディベートの立論

マイクロディベートの論題は「日本の中学校に学校給食は必要である」としました。ある生徒が作成した立論です。

〈肯定側立論〉

これから肯定側の立論を始めます。私が「日本の中学校に学校給食が必要である」と主張する根拠は3つあります。それは、温かい、バランスがとれている、親が楽です。

まず第1の根拠について説明します。給食は温かいままで食べられます。しかし、弁当だとせっかくおいしいものでも冷めてまずくなってしまいます。私は冷めているより温かいほうがおいしく食べられると思います。

次に、第2の根拠について説明します。給食の場合、栄養士さんがバランスを考えてくれます。それに対して弁当はどうでしょう。自分の好物しか入れず、バランスがとれません。

最後に、第3の根拠について説明します。親がつくらなくてよく楽です。弁当をつくるという事は、朝忙しい人にはとても迷惑になり手が足りません。

以上の内容をもって私の立論を終わります。ありがとうございました。

〈否定側立論〉

これから否定側の立論を始めます。私が「日本の中学校に学校給食は必要ない」と主張する根拠は3つあります。それは、嫌いなものが入っていない、自分で何がいいか決められる、自分に合った量でよいです。

まず、第1の根拠について説明します。嫌いなものが入っていないのはとてもいいことです。例えば栄養士さんがバランスを考えてくれても嫌いで食べなかったら意味がありません。それだったら、しっかり食べられたほうがいいと思います。

次に、第2の根拠について説明します。自分で何がいいか決められることです。給食だと、ずいぶん前からメニューが決まっています。しかし、弁当だと1日前にメニューを決められます。それに「お母さん、明日はサンドウィッチにして」などと頼むことができます。

最後に、第3の根拠について説明します。毎日の給食の量が多いと感じている人、少ないと感じている人と個人差があると思います。しかし、弁当なら自分に合った量にすることができます。

以上の内容をもって私の立論を終わります。ありがとうございました。